

宇都宮市立横川中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定割合は74.1%、「家で学校の授業の予習をしている」の肯定割合は70.2%、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定割合は74.1%となっていて、すべての項目で県より上回っている。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」の肯定割合は68.9%で県より6.4ポイント上回っている。家庭でのよい学習習慣が身に付いているといえる。今後も家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化を図っていききたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は87.0%で県より6.5ポイント上回っている。「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定割合は66.3%で、県より16.1ポイント上回り、学習に対してやる気をもって取り組んでいる姿がうかがえる。今後も、この前向きな気持ちを大切にしながら、学習環境、学習形態を考えていきたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定割合は84.5%で県より4.5ポイント上回り、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定割合は79.3%で県を5.5ポイント上回っている。「クラスは発言しやすい雰囲気である」や「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意である」の肯定割合も県を上回っていて、学校生活の中で自分の考えを発信できる機会が確保されているといえる。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定割合は94.8%で、県より5.3ポイント上回っている。あきらめずにやることで達成感を味わわせ、より自己肯定感を高められるような声掛けをし、意欲につなげていきたい。

○「しょう来のゆめや目標をもっている。」の肯定割合は96.1%で、県より9.3ポイント上回り、「家の人としょう来のことについて話すことがある」の肯定割合は71.5%で県を8ポイント上回っている。将来のことについての高い関心が見られるので、向上心を大切にしながら、今後も意欲的に学習に取り組めるような学習環境を整えていきたい。

○「次の教科などの学習は好きですか」や「授業の内容はよく分かりますか」、「しょう来のために大切だと思いますか」の質問では、国語・算数・理科の3教科において肯定割合が、県の割合よりも上回った。学校の授業を必要と感じるとともに、よく理解していることが分かる。

●1日当たりの読書の時間は、2時間以上という回答は10.4%で県を上回っているが、10分より少ないが31.2%で県を上回り、個人差が大きく見られる。また、「1か月に何さつくらい本を読みますか」では、5さつ以上の回答が40.3%で県を11.9ポイント下回り、「1さつも読まない」の回答は7.8%で県を上回った。朝の学習の時間の読書を有効に活用したり、学習に関連する本を紹介したりするなどして、様々な分野の本に触れる機会を確保し、読書の習慣化を図りたい。

●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は49.4%で県を10.4ポイント下回っている。「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定割合は50.7%で県を7.9ポイント下回っている。自主学習の取組などを充実させ、学ぶ意欲の向上を図りたい。

●「学校のきまりを守っている」の肯定割合は88.4%で県を4.7ポイント下回り、「家でのきまりや約束を守っている」の肯定割合は80.6%で県を4ポイント下回った。学校生活や家庭生活の中における規範意識を高め、家族の一員として役割を果たすことの意義について考える機会を設けるなどしたい。

●教科別の質問では、社会科の学習についての肯定割合が全て県を下回った。生活に身近な話題と関連付けることで関心を高められるようにしていきたい。